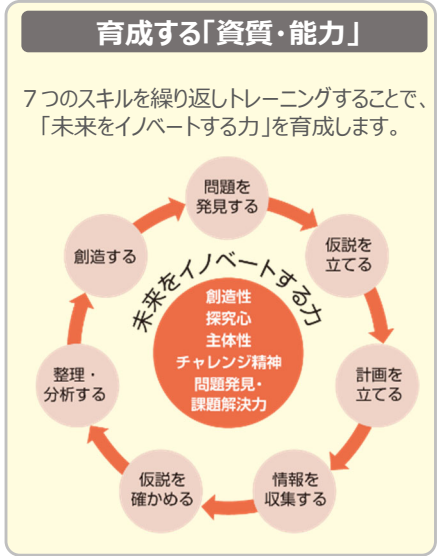
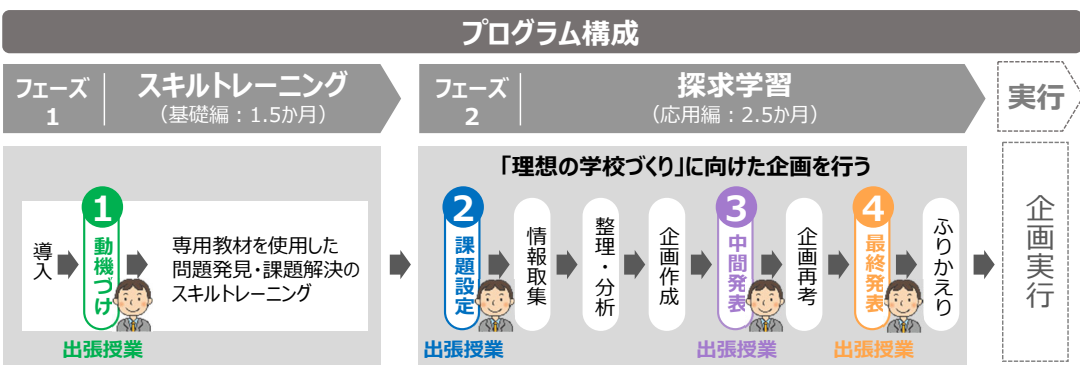


本プログラムは、これからの理工系人材に求められる「未来をイノベートする力（＝創造性、探求心、主体性、チャレンジ精神、問題発見・課題解決力）」の育成をめざして実施している、小学校5年生向けの教育プログラムです。日立グループ社員が“みらいサポーター”として参加する出張授業では、「問題発見・課題解決」の方法や日立グループの事例を伝えてアドバイスをし、“みらいイノベーター”である児童の成長をサポートします。



実施校：戸田市立新曽北小学校（埼玉県）

対象：6年生 3クラス（116名）

## 出張授業 1 回目：動機づけ

45分

導入 (5分)

講師授業 (15分)

実験 + 児童ワーク (20分)

まとめ (5分)

■ 授業のねらい ■  
 これからプログラムに取り組む児童に対し、めざすべき目標を伝えて動機づけをする



講師授業：

日立グループの社会イノベーション事例として「コンサイト（建設機械の見守り・お知らせサービス）」を紹介し、「世界中の人々が豊かで幸せに暮らせるよう、新しいアイデアで課題を解決していく人たちが“イノベーター”といい、イノベーターになるには、問題を発見して課題を解決するスキルが必要である」と説明をしました。



実験 + 児童ワーク：

具体的に問題発見・課題解決がどういうものであるかを理解してもらうために、「仮説を立てて確かめる」練習として、食器を使った実験をしました。事前にどの食器が水に沈むか・沈まないかを予想させて、水を張った水槽を使って確かめ、それぞれの違いをグループで考えました。

## 出張授業 2 回目：課題設定

45分

導入 (2分)

教師授業 (10分)

課題設定 (30分)

まとめ (3分)

■ 授業のねらい ■  
 「理想の学校づくり」をテーマに、学校の様々な問題の中から解決すべきものを「課題」として設定する



講師授業：

課題解決を身近に感じてもらうために、講師自身の課題解決の事例を紹介しながら、「身の周りにある様々な問題に気づき、その問題の中から解決すべきものを『課題』として設定することが“みらいイノベーター”になるための第一歩である」と伝えました。



課題設定：

児童が考えてきた「学校の問題点」を付箋を使ってクラスに共有し、似た問題意識を持つ意見をグルーピングしました。その後、講師が児童の話し合いにアドバイスをしながら、それぞれのグループが取り組むべき問題を1つに決めて、課題として設定しました。

導入  
(2分)

## ■授業のねらい■

自分たちで決めた課題を解決するためにアイデアを出して情報収集を行い、「解決策」をまとめ、講師とクラスメイトに向けて発表する

児童  
プレゼン  
+  
講評  
(55分)まとめ  
(3分)全19グループ中、  
1つのグループの発表を  
抜粋してご紹介します

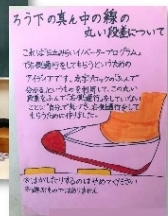
児童が考えた『理想の学校』	安全に楽しく過ごせる学校
課題	廊下を右側通行しない人…① 走る人…②がいる
解決策	①「右側通行できていない」ことを認識してもらうために 1. 点字ブロックの突起からヒントを得て、(踏んでも怪我ないように)ダンボールで作った段差を廊下の中央線に貼る 2. 黄色と黒で塗りつぶした足型を廊下に貼り、警告する ②：廊下を走っている人の数・理由を調査する ⇒走っている理由の大多数は「急いでいるから」と判明
講師からのアドバイス	①は実物を作成済み、②は調査済みとのこと、行動力が素晴らしい！②は、「どうして急いでいるのか？(理由)」や、「何のためにルールがあるのか？(目的)」を掘り下げていくと、めざすべき方向がより明確になるはず。

## 出張授業 4 回目：最終発表

導入  
(2分)

## ■授業のねらい■

中間発表の講師のアドバイスをヒントにしてさらなる情報収集や調査を行ってまとめた、改善案を発表する

中間発表でご紹介した  
グループと  
同じグループです児童  
プレゼン  
+  
講評  
(55分)まとめ  
(3分)

前回からの改善点	①アンケート調査の結果、ただ廊下に段差が貼ってあるだけでは気づいてもらえないことが分かったので、段差を作った目的と期待する効果について説明するポスターを作った ②「夢は向かって走るもの ろう下は歩くもの」という標語を用い、走っている人の心に留まるようなポスターを掲示した
講評	アイデアは勿論のこと、活動の意図を伝える仕掛け(ポスター)がとても良い！今後は、段差とポスターの認知度向上をめざして活動してほしい。

講師は最後に、「イノベーターデビュー、おめでとうございます！！問題発見・課題解決力を磨き続けていくと、大人になった時には仕事や周りの環境を選んだり、様々なことを自分で選ぶことができる能力も身につきますよ。これからこの力を磨き続けてくださいね！」とメッセージを送りました。



## 児童の感想

- ・自分たちは「そうじを真面目にやっていない人がある」ということを前提に(解決策を)考えていたけれど、アンケートで調べてみたら、半数以上は真面目にやっていた。「本当にそれが課題なの？」と講師の人に突っ込まれたから、気がついた！
- ・色々なアイデアを考え、成功するまで何度も試す力がついたと思う。
- ・(自分たちの活動を)同じ学年の人だけでなく、全校生徒に広げていきたい。



## 教員の声

子ども達はこのプログラムを通じて、「本当の問題を発見する力」「本当の課題を追及する力」「課題を何度も再設定しながら解決していく力」を身につけることができたと思う。  
また、キャリア教育の観点から考えても、「学校で勉強していることは社会と結びついている」と子ども達に繰り返し伝えることができたのも良かった。



## 講師の声

- ・知識を覚える学習ではなく、創造することが楽しくなる学習だと思った。
- ・課題は永遠のつきものなので、子どものうちから問題発見・課題解決のスキルを身につけることは非常に大切だと感じた。
- ・「これまで生きてきた自分を総動員するアトラクション」のように面白かった。子どもの学びのエネルギーはめちゃくちゃ素晴らしい！！